

令和8年度

奈良県立大学附属高等学校
入学者一般選抜検査問題

国語

注意事項

- 1 指示があるまで、この冊子を開いてはいけません。
- 2 答えは全て解答用紙の解答記入欄にマークしてください。複数を解答する場合も、一つの行には一つだけマークをしてください。(☐(-))
例：解答番号☐13、☐14に、答えとして①と②の2つをマークする場合、次のいずれかのようにマークします。

解答番号	解答記入欄
13	●②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩
14	①●③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩

または、

解答番号	解答記入欄
13	①●③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩
14	●②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩

- 3 印刷ミスなどがあれば、静かに手を挙げて監督の先生に知らせてください。
問題内容についての質問には答えられません。
- 4 不正行為は絶対にしないようにしてください。

一
次の各問いに答えよ。

(一) 次の(ア)・(イ)の()に当てはまる漢字、または、漢字と送り仮名として最も適切なものを、それぞれ後の①～⑤から一つずつ選び、その数字を、(ア)は解答番号 **1** に、(イ)は解答番号 **2** にマークしなさい。

(ア) 簡単に他人の意見に()合するべきではない。

① 抑 ② 仰 ③ 迎 ④ 融 ⑤ 隔

(イ) お客様の宿泊の予約を電話で()。

① 承る ② 承わる ③ 承まわる ④ 承たまわる
⑤ 承けたまわる

(二) 次の各文の()に当てはまる漢数字を後の①～⑨から一つずつ選んで全て入れたとき、使われていない漢数字はどれか。後の①～⑨から一つ選び、その数字を解答番号 **3** にマークしなさい。

・この宝石を売っても()束()文にしかならない。

・彼は雪山で遭難したが()死に()生を得た。

・部活動の新しい方針を反対されて()面楚歌に陥った。

・自由研究のテーマが思いつかず、()里霧中の状態だ。

・弱小チームが()転び()起きの精神で優勝を果たした。

① 一 ② 二 ③ 三 ④ 四 ⑤ 五 ⑥ 六
⑦ 七 ⑧ 八 ⑨ 九

(三) 次の文の——と漢字の音訓の組み合わせが同じものを、後の①～⑤から一つ選び、その数字を解答番号 **4** にマークしなさい。

・鍋のふたを開けると一気に湯気が立ち上った。

① 仕草
② 純粹
③ 手袋
④ 荷物
⑤ 新芽

(四) 次の文の「れる」と同じはたらきをしている「れる」「られる」を含む文を、後の①～⑤から一つ選び、その数字を解答番号 **5** にマークしなさい。

・あの有名な先生がまもなく本を出版されるそうだ。

① 先生に叱られるようなことはいない。

② 楽しかった中学校生活が思い出される。

③ 一ヶ月に何冊の本を読まれるのですか。

④ 弟なら一食でご飯三杯は食べられる。

⑤ 夜中に起こされるととても迷惑だ。

(五) 部分と——部分の関係が他と異なる文を、次の①～⑤から一つ選び、その数字を解答番号 **6** にマークしなさい。

① この店には見たいものがたくさんある。

② あそこで話しているのは私の妹だ。

③ 弟の部屋は私の部屋ほど広くない。

④ どうか私の願いをかなえてほしい。

⑤ 先生に薦められた本を読んでみる。

次の文章を読み、各問いに答えよ。

光が淡くやわらいできた。どこからか花の匂いが香って来る。大きな古屋敷のミモザの太木が風に揺れて、散歩をするわたしの肩に金色の粉がいっぱい降り注がれた。

この季節になるといつも、高校時代に住んでいた郊外の家を思い出す。マンションの五階の窓を開け放ち、裏のベランダから外を眺めると、遠くに一面の桃畑が濃い紅色に霞んで見えた。春の似合う土地だった。そのせいか穏やかな陽射しが降り注ぐ週末、我が家はよく客を迎えた。

朝から料理に忙しい母を横目で見ながら、わたしは知らぬフリをして自室で本を読み続ける。あと三十分ほどで客が着くという時刻になると、いやおうのない声がかかり、わたしはあきらめて本を閉じ、台所へ行くのだった。かいたいしく家事を手伝ったりすることの嫌いな娘だったが、最後のお膳立てだけは子どもの仕事と、幼い頃から母に言われて育った。「まず、お醤油差しを洗ってちょうだい」

冷蔵庫から醤油差しを取り出し、使いさしの醤油を捨てて、柔らかな布で丁寧に洗う。醤油差しは、普段から比較的上等なものを使い、それを客用にも出していた。毎日使うものだから、安ものではみすばらしい気持ちになる、というのが母の考えだったようだ。ちよつとモダンにも見える赤絵の肌をきれいに洗い、注ぎ口の白い部分を清めたものを食卓の上に置くと、それだけであたりの空気が背筋を伸ばすかのように思えた。

台所に戻ると、母が新しい布巾を下ろしている。客を迎える最後の仕上げが、この布巾だ。真っ白な、染み一つない布巾が三枚、きっかりと角を揃えてかけられていく。わたしは茶渋を取るために漂白剤につけてあった急須を洗って、籠に伏せる。

「さあ、終わった」

母は晴れやかな顔で微笑んだ。そして急いで洗面所に行き、髪を巻い

て化粧を始める。わたしは客用の箸を並べ、グラスや猪口を一人分ずつ箸の横に組み合わせて置いていく。すべてが出来上がった頃、いいタイミングでチャイムが鳴る。ドキドキしながら居間の時計を振り返る。それは芝居の幕が開く前のような、楽しい緊張の一瞬だった。

高価な食材で凝った料理を作るわけでもなく、豪華な花を飾るわけでもない。醤油差しと、布巾と急須。それらをただ清めることは、もてなしと言えるほどのものではなかっただろう。だが、暮らしの瀬の少しでも染みついたものを客が決して目にしないように、それらを新しくして客を迎え入れたのだと、そう願う母の思いはわたしのからだの奥底にしっかりと根を下ろしている。

帰る人を見送るときも、厳しく言い渡されていることがあった。お客様の足音が聞こえなくなるまで鍵を閉めてはいけない、ということである。せっかくなので気分よくよかに挨拶を交わしても、ガチャリという鍵の音が聞こえたら、まるで締め出されたような気持ちになる、余韻もなにもかき消えてしまふ、電話だって相手が切るのを待ってから切るのが礼儀。最後が一番大事なのよ――。

今、我が家は人の出入りが多い。バイク便や宅配便、クリーニング屋に集金と、そのたびにわたしは玄関までばたばたと走り出る。早口で相手をし、一刻も早く仕事に戻りたいと、そわそわしながら扉を閉める。もう猶予がない。一分でも早く原稿を書き上げてファックスしなければ。だが、そんな時でも知らず知らず、わたしは足音に耳を澄ます。一步、二歩、三歩。マンションの廊下を歩くライダーブーツの重い音、スニーカーの軽やかな音。一期一会ともいえないほどの、それは無機質な出会いにすぎない。それでもやはり鍵の音は聞かせたくないとと思う。一瞬の空気が、ささくれ立つような気がするからだ。たった三秒ほどのことである。足音が消えてからゆっくり鍵をかけると、さっきまでの締め切りへの焦った気持ちも、どこか落ち着きを取り戻している。

幸田文の随筆の中に、こんな一文があった。

——長く身近にいてくれた娘さんが、先頃これも新しくらしに向けて、出発していった。別れに先立って、なにをはなむけしようか、と考えたあげく、別れの心づかいといえは大袈裟だが、若干の、去るに当たっての方法のようなことを話しておくのがよからう、と思った。はき古しのサンダル、使いかけの化粧水、書き反故、空箱など一切のこさぬこと、それらを始末する時、がさつにせかせかせしないで、しつとり落ち着いた気持ちにと心掛け、一つ一つに、ここが区切りなのだ、ここで一段落おわるのだ、と思いい片付けてみて頂戴、こう教えるのが私の、あなたへの世話やきのおしまい、そう片付けるのがあなたの、ここでの生活のしめくりだ、といった——

この娘さんは素直に正直にこの言葉を受け、一つ一つに心を寄せて始末をした。そして「別れは心づかいによって、きれいにも、意味あるものにもなることがわかった」と礼を言って去って行ったという。

人の生活の跡は、ときに懐かしい温もりに感じられることもあるが、抜け落ちた毛髪のように、生命の澱みを積もらせた汚らしさをすぐに纏ってしまうものだ。娘さんは静かな気持ちで自分の跡を始末した。彼女の去った後の家には、清潔な、新しい空気が流れ込んできたに違いない。

この文の中にある「がさつにせかせか」という部分は、何度読んでも自分に言われているような気持ちになる。「しつとり落ち着いた」暮らしの心掛けには、わたしはまだまだほど遠い。一人で摂る食事のとき、つい新聞や資料を横に置いてしまう。一刻でももつたいないと思うからだが、なんと余裕のない姿だと情けなくなる。たまたま用事で来ていた母が、それを見てわたしの娘に言っている。

「ほらほらお母さんみたいな食べ方、絶対だめよ。お父さんを見習いなさい。そうすればきつとお行儀がよくなるから」

わたしは苦笑しながら箸を置く。夫の食事風景は昔から乱れない。どんなに遅く帰ってきてても、必ず着替えて食卓につく。疲れきっている

はずだし、すぐに眠るのだからパジャマでもいいと思うのだが、そうしないと気持ちが悪い、と彼は言う。背筋を伸ばして食卓につき、そこにだれがいなくとも「いただきます」「ごちそうさま」をきちんと言う。無駄のない箸運びで淡々と食べ、皿の上にひとかけらも残さず、食べ終わった食器は自ら片付ける。そんな姿を目にすると、母は、

「あちらのお母様の躰がいいから」

といまだにため息をついて嘆く。

「うちはだめね。恥ずかしいわ」

結婚するとき、食べ方のきれいな男がいいと思わないわけでもなかったが、それより大事な条件はいくつもあり、そんなささいなことにあまり目が行かなかった。ただ一度、魚の食べ方のきれいさを目を見張ったことがあった。神経質というのとも違う、彫刻刀でこつこつと版画を彫っていくような、粘り強く几帳面な食べ方だった。いまあらためて見ると、食べ方だけではなく、立ったり座ったり、夫はその立ち居振る舞いのすべてに静けさがあり、それがまったくわたしと違うところである。ごく普通の勤め人で、透명한空気のような男だと思つて暮らしてきたが、その空気の在り方こそが大切なもののように思われる。どんなに物で飾つてみても、作り出すことのできないものだからだ。

以前、自分がどれだけの物を持っているか書き出してみようと思つたことがある。だが、あまりの多さにすぐに投げ出してしまった。物を減らし、頭の中で覚えていられるくらいにしたい、という思いは年々強くなっていく。と同時に、物によって飾られた美を、なにか寒々しいものに感じるようになってきた。その思いが、少女の頃に教わつた、来客への心得の記憶を蘇らせたのかもしれない。醤油差しや布巾や鍵の掛け方は、ただそういうものかと思つてきたが、それだけではなかった。このような心配りこそが暮らしを美しくする基本だった。それは、空気的美ということだろう。場の空気に清々しい美しさを刻印すること、とでもいえるだろうか。

幸田文は、台所に花を飾るのをよしとしない、とも書いていた。初めてそれを読んだ時は「いふんとさっぱり、厳しい気性のひとなのだ」と思ったが、あとで別の本に、^D台所の楽しさとは料理をする手元から立ちのぼるものでいい、くつろぐ場所とは違うのだからとあるのを読み、ひどく納得したことを覚えている。場の美しさには人の心が照り映える。だからこそ、空気の美に敏感でいたいと思う。

(光野桃『実りを待つ季節』より。出題の都合により一部文章を省略した箇所がある。)

(注) 使いさし||使いかけ。

赤絵||色絵とも呼ばれる。赤色を基調とした、絵が描かれている

陶磁器。

猪口||酒を飲むための小さな器。

澱^{おこ}||かすのように積もってたまったもの。

幸田文||明治生まれ、昭和に活躍した随筆家・小説家。

書き反故||書き損じていらなくなった紙。

(一) ^Aあたりの空気が背筋を伸ばすかのように思えた とあるが、これは筆者のどのような心情を表しているか。最も適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、その数字を解答番号 7 にマークしなさい。

① お客様をもてなすために食卓をきれいに片付けたことが、家の中の広々とした様子を際立たせ、自分の生活も自由に伸びやかになったように感じている。

② 日常の中でよどみたまってしまった不要なものを丁寧に取り払い、食卓という場が整っていく様子を見て、気持ちも新たに清々しさを感じている。

③ 来客の準備を誰もいない台所で黙々としていたが、いざ食卓に移り手入れた醤油差し一つを置いただけで、場の空気が変わったことに感心している。

④ 普段から使用しているとはいえ、比較的上等な醤油差しの手入れをしなくてはならない緊張感から解放され、母から与えられた役割を全うできてほっとしている。

⑤ 高価な食材を使った凝った料理を用意していない中、心配りによって客を上手にもてなさなくてはならないという重圧で、身の引き締まる思いをしている。

(二) ^B そんな時でも知らず知らず、わたしは足音に耳を澄ます とあるが、それはなぜか。その理由として最も適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、その数字を解答番号 **8** にマークしなさい。

- ① 大切な出会いがその場限りの関係になってしまわないように、相手に対して真心を込めて対応しようとしているから。
- ② 次に会ったときに気まずくならないため、相手がどんな気持ちで去っていくのかを感じ取ろうとしているから。
- ③ 日常生活に追われて余裕がなくなっている自分に気づき、ゆつたりと振る舞うことで心を落ち着けようとしているから。
- ④ たとえその場限りの関係であったとしても、せっかく出会った機会を大切に心地よく終わらせたいと思っているから。
- ⑤ 二度と会わないかもしれないが、自分の配慮のない行動が巡り巡って自分の不利益になるかもしれないと心配しているから。

(三) ^C わたしは苦笑しながら箸を置く とあるが、このときの「わたし」の心情の説明として適切でないものを、次の①～⑤から一つ選び、その数字を解答番号 **9** にマークしなさい。

- ① 自分の行儀に対する母の指摘は正論ではあるが、そういう自分をしつけたのは、指摘している母自身であることの皮肉を感じている。
- ② 自分だけの食事がせわしないのは事実だが、仕事柄やむを得ない部分もあり、事情を言わないとわかってくれない母にあきれている。
- ③ 自分の欠点を指摘されて耳が痛い、言われたことは正しいため言い返すこともできず、その場を取り繕いたいと思っている。
- ④ 自分の行儀が悪いことは重々承知していたが、自覚のあることを人前で指摘されたことで改めて情けなさが込み上げてきている。
- ⑤ いい大人であるにもかかわらず、娘の前で行儀について指摘されることにきまりの悪さを感じ、母に少しは配慮してほしいと思っている。

(四) ^D 台所の楽しさとは料理をする手元から立ちのぼるもの とはどのようなことか。最も適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、その数字を解答番号 **10** にマークしなさい。

- ① 料理をするときには自分の手元に集中すると料理が格段に上手になっていくため、食べてくれる人の幸せにつながるということ。
- ② 自分が扱う食材の見た目や香り、手触りなどに気を配ると、料理の幅が広がり、食べる人をより喜ばせることができるということ。
- ③ 食べる人のことを思いながら、丁寧の一つ一つ調理していく作業の過程こそが、台所にいることの醍醐味であるということ。
- ④ 台所とは料理をする場であり、台所にいる自分を意識することで、料理が好きになり、料理の奥深さを味わうことができるということ。
- ⑤ 料理に必要なもの以外は台所に置かないようにすると、料理に集中することができ、料理そのものを楽しめるようになるということ。

(五) 文章中には「空気」という言葉が八回用いられているが、それらの用いられ方についての説明として適切でないものを、次の①～⑤から一つ選び、その数字を解答番号 **11** にマークしなさい。

- ① 「その空気の在り方」では、ある人の生き方や考え方が自然と態度にあらわれた様子を指し示し、比喩的な意味で用いられている。
- ② 「新しい空気」では、実際の物質としての空気のことを指し示し、吹き込んでくる空気の温度を示す目的で用いられている。
- ③ 「空気の美」では、「清々しい美しさを刻印」された場の様子を指し示し、この文章全体を象徴する語として用いられている。
- ④ 「透明な空気のような男」では、存在感のないことを比喩的に指し示し、否定的な感じを表すものとして用いられている。
- ⑤ 「あたりの空気」「一瞬の空気」では、その場で感じ取られる雰囲気や空気を指し示し、周囲に気を配る様子が伝わるように用いられている。

(六) この文章の構成や内容、表現の工夫についての説明として最も適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、その数字を解答番号 **12** にマークしなさい。

- ① 筆者の豊かな内面や素直な思いを書きつづり、筆者の思う理想の暮らしや人としての在り方を明らかにしながら、それらを実現することの難しさについて問いかけている。
- ② エピソードを詳しく描写することで、筆者に影響を与えた人物の特徴や考えを明らかにし、それぞれの人物の視点を交錯させながら、筆者自身の価値観が立体的に浮かび上がるように描いている。
- ③ 光や色彩を含めた明るさを感じさせる物語風の描写から書き始めることで、それ以降に回想の形で書かれるエピソードが、筆者による影響を及ぼしたことを感じさせるよう描いている。
- ④ 筆者の母や夫などの身近な人の話と、筆者からは遠い存在である幸田文の話を交互に取り上げて、多様な価値観に触れた筆者の思いの揺れ動きが時系列に沿って分かるように構成されている。
- ⑤ 筆者自身にまつわる思い出について、平易な言葉を用いた短文を重ねていくことで臨場感を表現し、どのような場面でも品行方正に生きる筆者の姿を描き出している。

次のページに続きます。

次の文章を読み、各問いに答えよ。

幸福について、あなたが最後に誰かと話したのはいつだろうか？「幸福」という言葉はとくに難しい言葉ではないけれども、日常的な会話のなかで使う機会は意外とない。とりわけ、幸福をわざわざテーマにして誰かと本気で語り合うというのは、珍しいことではないだろうか。

これはたんに、幸福について話すのが恥ずかしいからではない。あえて強い言い方をする、幸福について本気で語り合うことは、自分が一種の〈闘いの場〉にいることを自覚しつつ、その闘いの場に話し相手を引きずり込むことであって、だからこそ、実行しづらいことなのである。これがどういう意味であるのかを、以下の文章で見よう。

幸福とは何かをめぐる哲学者たちの長年の議論がこれといった決着を見せてこなかったのは、なぜだろうか？ この問いには、答えがないから？ いや、たんにそれだけのことであるのなら、答えがないことそれ自体が答えとして得られてもよかったはずである。つまり、「幸福」とは多義的であまい言葉であって、だから、幸福とは何なのかという問いには定まった答えがないのだ、という答えが。しかし、実際にはこのような仕方ですえ決着がつくことはなかった。幸福について論じようとする人々は、その理由こそを問うてみるべきである。幸福とは何であるかについて、皆が納得のいく説を誰も提出することができず、だからといって、この問いには答えがないという答えにも皆が納得してこなかったのは、なぜなのか。

この問いに私なりに答える前に、^A 快樂説、欲求充足説、客観的リスト説という三つの説の内容について簡単に紹介しておくべきだろう。快樂説によれば、快樂の多い人生こそが幸福な人生だとされる。ここで言う快樂には、身体的な快樂だけではなく精神的な快樂も含まれる。次に、

欲求充足説（欲求実現説とも言われる）によれば、欲求したことが実際に起こることこそが幸福を形成する。ただし、幸福を形成するのは、欲求したことの実現そのものであり、それが実現したことへの喜びとしての快樂は必要とされていない。

快樂説と欲求充足説はさまざまな批判を受けてきたが、批判の大事な前提となっているのは、何に快樂をおぼえたり何を欲求したりするかが人それぞれの主観によるという事実だ。他人から見てもどんなに低級な快樂や邪悪な快樂（たとえば、いじめをすることの快樂）であろうと、当人にとって快樂があるなら、快樂説のもとではそれは幸福と見なされてしまう。低級な欲求や邪悪な欲求についても同様であり、当人がその欲求を持つ以上、それが実現したならば欲求充足説のもとでは幸福だとされてしまう。多くの論者はここに抵抗を感じ、「それは本当の幸福ではない」と主張することになるのだが、これはつまり、^B「本当の幸福は人それぞれのものではない」ということだ。

一方、客観的リスト説によると、客観的な価値を持ったさまざまな項目によって幸福は形成されている。それらの項目のリストには、健康・愛情・知識・自由・達成……などが入れられることが多いが、当然のことながら、万人の意見が一致するようになりリストを作るとは困難だ。たとえ一部の人々にとって納得のいくリストが作れたとしても、それはほかの人々にとって価値観の押し付けとなるだろう。また、「客観」的な価値といわれるものもその正体はつきりせず、たとえば元素の周期律を持つような高い客観性はそこに望めないものであって、客観的リスト説の「客観」とは結局、たくさんの「主観」の支持があること——、つまり多数派の価値観に合っていることにすぎない。

快樂説と欲求充足説では、何が幸福を生み出すのかが人それぞれの主観に紐づいていた。しかし、そうした主観的な幸福は、客観の側からの浸食をつねに免れない。「客観」という名の〈主観の多数派〉は、低級な快樂や邪悪な欲求などの実現を「本当の幸福」ではないものと裁定す

る。他方で、「客観」なるものはどこまで行っても本当は主観の寄せ集めでしかないし、そして私の幸福にとってはこの私の主観こそがやはり特別な位置を占めている（客観的に価値があるといわれても、この私がまったく関心を抱けないものが私を幸福にしてくれるのかどうかは疑わしい）。それゆえ、客観的幸福は、へ多数派としての主観の側からの浸食をつねに免れないと同時に、へこの私の主観の側からの浸食も免れない。こうして、幸福をめぐる主観と客観は、それぞれが他方を浸食する運動を生じさせることになる。

重要なのは、この相互浸食の運動がいつまでも続くことであり、それゆえに、三つの説のどれか一つが完全な勝利を収めることはない。私たちはそのつどの自分に与えられているものを見たいうえで、ある相互浸食のかたちを一つの幸福として括り出すことしかできない。いま自分と与えられているものに明らかな欠落があるときには——たとえば健康面の問題など——主観と客観のバランスにいびつなところが出てこざるを得ないが、それでも、そのバランスのもとで何らかのものを手を伸ばしていくことが、あなたの人生をあなたの人生として形づくっていくということである。このことより正確な意味については、へ共振」という概念を使って後述述べなおすことにしよう。

快楽、欲求実現、そして、客観的リストに含まれる項目。これらのもものが、もし全部いっぺんに得られるとしたらどうだろうか。「自分は三つの説のうちの〇〇説の支持者だから、その〇〇に関係ない他のものは要りません」と本気で言う人はどのくらいいるだろうか？ そんな人はまずいないであろうが、だとすると、議論のための議論としてではなくへ三つの説のいずれかを支持するような仕方議論すること」にどんな意味があるのかを、専門家たちは見直してみるべきである。

日常の小さな選択において、快楽、欲求実現、客観的リストに含まれるある項目の獲得（たとえば健康の増進）がいっぺんに生じることが、

じつは珍しくもなんともない。たとえば、朝食にパンを食べるだけでも、近所に散歩に出かけるだけでも、それらはしばしば、いっぺんに生じる。私は以前に『幸福はなぜ哲学の問題になるのか』（太田出版）という本で、ある一つの行為の選択によって偶然的にはなくそれらがいっぺんに生じることをへ共振」と呼んだ。限られた時間と資源のなかでへ共振」を目指した選択をするための知性を人間はたしかに持っており、この事実を無視した幸福論は頭でっかちなものになってしまう。

とはいえ、いつでもへ共振」が可能になるわけではないこともまた重要な事実であり、人生の時々々の選択において——、とりわけ大きな選択において、あるものに手を伸ばすことは、他の何かを諦めたり突っぱねたりすることを、すなわちへ共振」の部分的な放棄を私たちに求めてくる。たとえば、やりたい仕事と家族の介護のそれぞれにどれだけの時間を割くか？ そのことで、へ共振」のどの部分を削り取り、代わりにどの部分を維持するか？ こうした大きな選択は個人的で具体的な細部に満ちており、つねに正しい選択をさせてくれる普遍的な原則は存在しない。私たちは、日々変化する個別的な状況を前にして、他者から見ればいびつなへ共振」であろうと、自分なりのへ共振」のさせ方をそのつど探していかなくてはならない。

私はさきほど、「幸福について本気で語り合うことは、自分が一種のへ闘いの場」にいることを自覚しつつ、その闘いの場に話し相手を引きずり込むこと」だと述べた。「幸福」という概念がまさに生きた概念となるのは、私たちが人生を作っていくときに——、あるいは人生を振り返ったときに、主観と客観のある相互浸食を前にして、《私はこのような相互浸食のかたちを一つの幸福と見なす》と裁定するときである。こうした裁定は、異なる相互浸食のかたちを幸福と見なす観点からの反発をつねに待ち受けており、「幸福とは人それぞれのものだ」といった他人事のような発言によって、ここに生じうる対立を解消することはできない。そして、むしろ、このような安易な解消ができないことこそが、

幸福について本気で語り合うことの中心的な動機となっている。あなたの語る幸福に対し、あるいは、あなたがたの語る幸福に対し、「それは本当の幸福ではない」という声がつねに潜在しているからこそ、その幸福はあなたやあなたがたにとって本気で語らずにいられないものとなっている。

だから幸福とは、どんなに優れた哲学者であっても、それが何であるのかを固定的に定義できるようなものであってはならない。そして同時に、それが何であるのかの答えなどないという雑な仕方では片づけられるようなものであってならない。「幸福」とは、主観と客観の〈闘いの場〉において、何よりも自分の生き様といっしょに差し出される言葉であるからだ。

(青山拓央『哲学の問い』より。出題の都合により一部文章を省略した箇所がある。)

周期律Ⅱ元素を原子番号の順に並べると、周期的に性質のよく似た元素が現れる規則性。

(一) A 快樂説、欲求充足説、客観的リスト説という三つの説とあるが、これらの説に関する説明として適切でないものを、次の①～⑥から二つ選び、その数字を解答番号 13・14 にマークしなさい。

- ① 快樂説における快樂の基準は全て主観に基づいている。
- ② 三つの説はいずれも主観的な側面を持ち合わせている。
- ③ 欲求充足説では欲求実現の喜びが幸福を形成する土台となる。
- ④ 客観的リスト説では多数派の価値観を押し付ける危険性がある。
- ⑤ 快樂説や欲求充足説では快樂や欲求の質は問われない。
- ⑥ 三つの説を同時に成り立たせることこそが幸福である。

(二) B 「本当の幸福は人それぞれのもではない」ということだとあるが、このように言えるのはなぜか。最も適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、その数字を解答番号 15 にマークしなさい。

- ① 哲学者たちは幸福の捉え方は人それぞれだと言いながら、実際には客観的リストに主観的な項目を多数入れることで、幸福の捉え方がある程度制御しようとしているから。
- ② 幸福の基準はさまざまであり、邪悪な欲求の実現を幸福と感じる人もいるが、邪悪な欲求を抱くことは誰にでもあることなので、幸福についての認識に差があっても大きな問題はないと言えるから。
- ③ 低級で邪悪な快樂や欲求を求める人物の自由を認める代わりに、彼らに対して否定的な見解を示す論者の立場も擁護することで、かろうじて自由な議論が可能になっているから。
- ④ 他者が幸福と感ずるものを否定する行為は、ある一定の共通の価値基準が根底にあるという考え方に基づいており、相手の価値観の自由を認めない姿勢を表しているから。
- ⑤ 道徳的問題のある行為については、たとえ個人の幸福のためであっても否定されるのは当然であり、社会生活に必要なルールの中でこそ各人の本当の幸福が見えてくるものだから。

(三) ^C 客観的幸福は、〈多数派としての主観〉の側からの浸食をつねに免れないと同時に、〈この私の主観〉の側からの浸食も免れないとはどういうことか。最も適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、その数字を解答番号 **16** にマークしなさい。

- ① 幸福の客観的な捉え方は人それぞれである上に、客観的だと多数が認めたりリストであっても、主観が紛れ込んでいる可能性は排除できないことから、幸福を客観的に定義することは難しいということ。
- ② 客観的幸福は、多数派の主観に左右されるものであるだけでなく、個人の主観によっても肯定されなければ意味がないという点において、主観の影響を大きく受けないわけではないということ。
- ③ 幸福について客観的に規定することは難しく、結局はより多くの人が納得できる主観を客観的とすることで作成したりリストを万人に納得させる以外に、客観的幸福を形成する方法がないということ。
- ④ 多くの主観を重ねることで客観的な幸福の規定ができたとしても、個人にとっての幸福はその人の主観に左右されてしまうため、幸福における主観と客観の両立は難しいということ。
- ⑤ 幸福を感じるということは主観的な営みであることから、客観的に誰が幸福であるかを決めるのは不可能であり、個人が主観として幸福だと感じることでしか幸福は形成できないということ。

(四) ^D 〈三つの説のいずれかを支持するような仕方での議論すること〉にどんな意味があるのかを、専門家たちは見直してみるべきである。とは、どういうことか。最も適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、その数字を解答番号 **17** にマークしなさい。

- ① 三つの説が想定するそれぞれの「幸福」は、どれも手に入れないものであり、いずれかを選択することを前提にした議論は現実的ではないということ。
- ② 三つの説が想定するそれぞれの「幸福」は、どれも説得力のある考え方に基づくものであるため、議論のために優先順位を決めるのは無意味だということ。
- ③ 三つの説が想定するそれぞれの「幸福」のうち、どれを優先するかは個人的な事情に基づくことから、一般化して議論するのは無意味だということ。
- ④ 三つの説が想定するそれぞれの「幸福」を知ってしまったと、全てを欲しがってしまったため、そのような議論を止めることで人間の欲求をある程度制限できるのではないかとということ。
- ⑤ 三つの説が想定するそれぞれの「幸福」をすべて手に入れた形では、本当の幸福は形成できないことを前提に、今後の議論を展開するべきだということ。

(五) この文章を読んだ春男さん、夏美さん、秋子さん、冬太さんが、文章の内容について会話をしている。次の【会話文】を読んで、後の各問いに答えなさい。

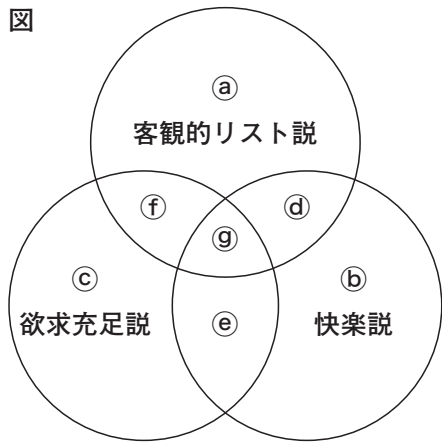
【会話文】

春男さん この文章では「幸福」という壮大なテーマについて、哲学的な視点から紹介していたね。幸福について挙げられていた三つの説について、みんなで整理したいな。

夏美さん その点で私は、筆者の言う「へ共振」に興味を持ったよ。筆者が言う「近所に散歩に出かける」例でこの「へ共振」を説明すると、それは「健康を増進させる」という意味ではA説での幸福が形成できているし、家にじっとしているのが嫌でとにかく歩きたいと思っているならB説の、そして、外の空気を吸ってリフレッシュできて楽しかったのならC説の幸福が形成できたということだね。

秋子さん その三つの説の関係を図にするとこんな感じかな。夏美さんの説明によると、散歩に出かけることで三つの説での幸福が同時に成立していて、三つの輪が重なる⑨が「へ共振」を表しているということになるね。

冬太さん 筆者は「へ共振」の部分的な放棄」が求められることもあるとも述べているけど、それについても秋子さんの図で考えると分かりやすそうだね。僕は時々、お腹がすくとスナック



図

菓子を食べ過ぎてしまうことがあるよ。大好きなスナック菓子をつい食べ過ぎてお腹をいっぱいにしてしまうと、快樂説と欲求充足説の両方の意味で幸福だけど、「健康を増進させる」という客観的リスト説の幸福からは遠ざかっているから、部分的に共振を放棄した⑩の状態になっているね。

春男さん 冬太さんには食べ過ぎに注意してもらおうとして、何かを選ぶと何かを捨てる必要があることが人生の中にはよくあるね。だから、筆者は「自分なりの「へ共振」のさせ方をそのつど探していかなければならない」と述べているんだね。みんなのおかげで整理できた気がするよ、ありがとう。

(ア) 【会話文】の中のA、B、Cに当てはまる語句の組み合わせとして最も適切なものを、次の①～⑥から一つ選び、その数字を解答番号18にマークしなさい。

- | | | | |
|---|----------|----------|----------|
| ① | A 快樂 | B 欲求充足 | C 客観的リスト |
| ② | A 欲求充足 | B 快樂 | C 客観的リスト |
| ③ | A 客観的リスト | B 快樂 | C 欲求充足 |
| ④ | A 快樂 | B 客観的リスト | C 欲求充足 |
| ⑤ | A 欲求充足 | B 客観的リスト | C 快樂 |
| ⑥ | A 客観的リスト | B 欲求充足 | C 快樂 |

(イ) ^E 自分なりの〈共振〉のさせ方をそのつど探していかななくてはならないとはどういうことか。最も適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、その数字を解答番号 **19** にマークしなさい。

① 快樂、欲求充足、客観的リストに含まれるある項目の獲得は、同時に成り立つことが多いため、日常のさまざまな局面において、全てを獲得するという意識を持ちながら選択をし続けるしかないということ。

② 快樂、欲求充足、客観的リストに含まれるある項目の獲得は、三つを同時に成り立たせるための正しい選択が求められているため、一人一人が自分にとっての普遍的な法則を追求していくしかないということ。

③ 快樂、欲求充足、客観的リストに含まれるある項目の獲得は、常に同時に成り立つとは限らないので、あらかじめ自分なりの優先順位を決めたうえで、他者の価値観に惑わされないようにして生きていくしかないということ。

④ 快樂、欲求充足、客観的リストに含まれるある項目の獲得は、同時に成り立たないこともあるため、他者とのバランスを考えながら、お互いが最大の幸福を実現できるような選択をしていくしかないということ。

⑤ 快樂、欲求充足、客観的リストに含まれるある項目の獲得は、常に同時に成り立つとは限らないため、他者からの理解が得られなくても、具体的な状況の中で自分が納得できる生き方を選んでいくしかないということ。

(六) 幸福とは何かをめぐる哲学者たちの長年の議論がこれといった決着を見せてこなかったのは、なぜだろうか？ とあるが、この問いに対する筆者の解答として適切なものを、次の①～⑥から二つを選び、その数字を解答番号 **20**・**21** にマークしなさい。

① 幸福についての快樂説、欲求充足説、客観的リスト説の三つの考え方は、どれも一長一短で一つを選ぶことができないから。

② 幸福が個人的で自分の生き方につながるものであるため、別な生き方をする人と必ず対立し、またそれを安易に解消できないから。

③ 幸福の議論は、常に他者との対立の可能性を内包しているため、客観的に議論を進めることが難しいから。

④ 幸福とは何かについて結論を出すのではなく、主観と客観のせめぎ合いをいつまでも続けることが重要だから。

⑤ 幸福のあり方はその人の人生によって一人ひとり異なるものであり、定まった答えはないものだから。

⑥ 幸福は主観と客観が相互にせめぎ合い流動する中から定められるものであり、常に変わらぬ答えがあるわけではないから。

四

次の文章は、説話集『沙石集』の一部である。これを読み、各問いに答えよ。

南都に、齒取る唐人有りき。ある在家人の、慳貪にして、利養を先と(奈良)
(虫歯を抜く唐の人) (けち)

し、事に触れて、商ひ心のみありて、徳もありけるが、虫の食ひたる齒(財産)

を取らせむとて、唐人がもとに行きぬ。齒一つ取るには、錢二文に定め

たるを、「一文にて取りてたべ」と云ふ。少分の事なれば、ただも取る(一文で抜いて下さい)

べけれども、心様の憎さに、「ふつと、一文にては取らじ」と云ふ。や(絶対)

や久しく論ずる程に、「おほかた取らざりければ、」さらば三文にて、齒(まったく)
(それならば)

二つ取り給へ」とて、虫も食はぬに良き齒を取り添へて、二つ取らせて、

三文取らせつ。心には利分とこそ思ひけめども、疵なき齒を失ひぬる、(得をした)

大きな損なり。此は申すに及ばず、大きに愚かなる事、嗚呼がましき

わざなり。

但し、世間の人の利養の心深き、事に触れて利分を思ふ程に、因果の

道理も知らず、当来(おぼ)の苦報をも弁へず、ただ眼前の幻の利にふけりて、(来世に苦しい報いが来ること)

身(からだ)の後の菩提の財宝を失ひ、仏法の利を得ざる事のみこそ多けれ。

上代は人の心素直に、欲なくして善根を営みしも、皆まことしき心に(善)
(善行)

住しき。

(注) 在家人は出家をせず普通に暮らしている人。

後の菩提は来世で極楽に生まれ変わる事。

(一) ①～⑤を現代仮名遣いに直したとき、表記が変わるもの一つを選び、その数字を解答番号 22 にマークしなさい。

(二) 心様の憎さとは、どういうことか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、その数字を解答番号 23 にマークしなさい。

- ① 唐人の心の狭さが残念だということ。
- ② 唐人の思いつきが愚かだということ。
- ③ 在家人の熱心さに心が動かされたということ。
- ④ 在家人のずうずうしさが腹立たしいということ。
- ⑤ 在家人の金銭管理が細かすぎて嫌になるということ。

(三) さらに三文にて、齒二つ取り給へ とあるが、なぜこのようなことを言ったのか。最も適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、その数字を解答番号 24 にマークしなさい。

- ① 金額をつり上げて、相手の反応を確認しようと思ったから。
- ② 一本あたりの金額を下げて、なんとか得をしようと思ったから。
- ③ 長引く問答にうんざりして、はやく切り上げたいと思ったから。
- ④ 異常なまでの金への執着を、からかってやろうと思ったから。
- ⑤ 金の計算ができないことを、嘲笑ってやろうと思ったから。

【資料1】

鎌倉時代の新しい仏教

平安時代末頃からの戦乱や飢きんによって社会不安が高まると、人々はより強く、自分に身近な救いを求めるようになった。朝廷や幕府と結びついた伝統的な仏教が複雑な儀礼や高度な学問を必要としたのに対して、この時代に生まれた分かりやすく行いやすい新しい仏教の教えは、不安定な時代の中で悩み苦しむ庶民の心に強く響き、地道な布教活動を通じて世俗の人々に広く浸透していった。

(五) この文章を読んだ吉田さんは、『沙石集』が無住という僧によって書かれた鎌倉時代の仏教説話集であることを知り、鎌倉時代の仏教や人々の生活について調べた結果、「資料1」、「資料2」を見つけた。後の【感想】は、この文章について、これらの資料を踏まえて吉田さんが書いたものである。この【感想】中のA、Bに入る最も適切なものを、それぞれ後の①～⑤から一つずつ選び、その数字を、Aは解答番号26に、Bは解答番号27にマークしなさい。

(四) 仏法の利を得ざる事のみこそ多けれど、味として最も適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、その数字を解答番号25にマークしなさい。

- ① 仏教的に見て、利が多すぎるのではないかということ。
- ② 仏教的に見て、利が多いことがほとんどないということ。
- ③ 仏教的に見て、利を得ることが多くて困るということ。
- ④ 仏教的に見て、利を得ることだけが大きいということ。
- ⑤ 仏教的に見て、利を得られないことが多いということ。

(五) この文章を読んだ吉田さんは、『沙石集』が無住という僧によって書かれた鎌倉時代の仏教説話集であることを知り、鎌倉時代の仏教や人々の生活について調べた結果、「資料1」、「資料2」を見つけた。後の【感想】は、この文章について、これらの資料を踏まえて吉田さんが書いたものである。この【感想】中のA、Bに入る最も適切なものを、それぞれ後の①～⑤から一つずつ選び、その数字を、Aは解答番号26に、Bは解答番号27にマークしなさい。

【資料2】

鎌倉時代の主な出来事

- 1221年 承久の乱
- 1230～31年 飢きん
- 1232年 御成敗式目の制定
- 1257年 正嘉地震
- 1259年 飢きん
- 1274年 文永の役
- 1281年 弘安の役
- 1293年 鎌倉大地震・飢きん

【感想】

この文章では、ある在家人の抜歯にあたっての唐人とのやり取りが描かれています。在家人がけちで愚かな人間と感じられますが、書かれた時代の状況などを踏まえると、この人は当時のAだと私は考えました。このエピソードを通して無住が伝えたかったのは、Bにとらわれることの愚かさです。その意味では、これは単なる滑稽なお話ではなく、現代を生きる私たちにも通じる教訓を含んだ説話であるように思います。

- | | |
|--|---|
| <p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 愚かな金持ちの典型 ② 世間によくいた人 ③ 優れた知恵者 ④ 仏教を敵視する人 ⑤ 権力を振りかざす武士 | <p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 少分の事 ② 身の後の菩提 ③ 眼前の幻の利 ④ 因果の道理 ⑤ 当来の苦法 |
|--|---|

五

花江さんのクラスでは、防災について調べて提案文を書くことになった。花江さんは「携帯トイレの備蓄をしよう」というタイトルで次の提案文を書いたが、先生からの助言により、より説得力のある具体例や資料を入れようと考えて、後のA～Fのメモを用意した。これらのメモについて、それぞれ提案文の説得力を増すために適切だと思われる場合は①を、適切でないと思われる場合は②を選び、その数字を、Aは解答番号 28 に、Bは解答番号 29 に、Cは解答番号 30 に、Dは解答番号 31 に、Eは解答番号 32 に、Fは解答番号 33 にマークしなさい。

【花江さんの提案文】

皆さんの自宅では、災害時に備えた備蓄は十分ですか。食糧や水などの備蓄は整っていても、衛生面に関わる備蓄は意外と忘れられていることが多いそうです。その一つが災害用トイレです。あまり報道はされませんが、災害が起きると電気や水道がストップし、「トイレが使えない!」という事態になることがあります。私たちは一日に約五回トイレを使うと言われていて、断水や下水の破損でトイレが使えなくなると、衛生面で深刻な問題が生じる恐れがあります。また、「断水でトイレが不安だから」と水分を控えることで、脱水症状や免疫力低下などの健康被害が引き起こされる可能性が強まります。

災害が起きると、避難所には仮設トイレが届けられますが、十分な数が届くまでには時間がかかります。仮設トイレが届くまでの間に困らない数の携帯トイレを用意する必要があります。

もしものときに、少しでも健康的に生活できるように、ぜひ携帯トイレの備蓄を進めていきましょう。

【メモ】

A 東日本大震災において仮設トイレが三日以内に避難所に届いたと回答した地方公共団体の割合は、全体のわずか三十四パーセントです。四～七日かかったのは十七パーセント、八～十四日かかったのは二十八パーセントです。中には一か月以上かかったというケースもありました。

B 災害時は、排泄物を流すことができないので、トイレのニオイ対策も大事です。消臭剤や重曹、酸素系漂白剤などを排泄物に振りかけると、消臭効果があるそうです。また、防臭効果の高いビニール袋などもあります。着用しているマスクにアロマオイルを垂らすことで、臭いのストレスを減らす方法もあります。

C 非常時には家にあるもので簡易トイレを作ることができます。必要なのはポリ袋と新聞紙です。まず、便座を上げて便器にポリ袋をセットします。次に便座をおろしてからもう一枚ポリ袋をセットします。ポリ袋の中に、新聞紙をちぎって入れれば、簡易トイレの完成です。

D 国では、一人あたり三十五回分(七日分)の携帯トイレの備蓄を推奨しています。しかし、調査では家庭に災害用トイレを備えているという回答は二十パーセントほどでした。また、携帯トイレを準備している人の半数以上が十回分未満の備蓄しかしていないという実態も報告されています。

E

阪神淡路大震災では水洗トイレが長期間使えないだけでなく、仮設トイレも不足したことで、排泄環境が不衛生になり、「トイレパニック」という言葉が生まれたほどでした。

F

災害用トイレにはさまざまな種類がありますが、その一つにマンホールトイレというものがあります。これは、避難所の近くにある下水道に直結したマンホールの上に、便器や仕切りを設けるものです。下水道の下流が破損していなければ、排泄物を直接下水道に流せるので衛生面の心配が少ないと言われています。

